

第1回奄美群島森林生態系保護地域保全管理委員会で出された主な意見

課題		主な意見
適切な管理の推進	希少種・固有種の保護	<ul style="list-style-type: none"> 産業廃棄物不法投棄、野猫等の遺棄が問題。また、野犬・野猫へ餌を与えている住民等がいる 昆虫採取の業者が入っているが、実態がつかめていない 夜間にライトトラップで昆虫を大量捕獲するグループがいると民宿から情報がある。民宿等での有効な対策を検討すべき 昆虫など生き物については、持ち出し禁止の条例等の対策が必要 監視カメラでしっかり管理することは重要
	外来種対策	<ul style="list-style-type: none"> 公共工事等で法面緑化に使用される種及び飛来等で繁殖する外来種の駆除などの対策が必要 湯湾岳への外来種の入り込みが多く見られる。入山時における対策が必要
	人工林の取扱	<ul style="list-style-type: none"> スギ人工林をどのように維持するかが課題、伐って広葉樹林化を促進するのか、自然に任せるのか、整理しもっと議論すべき 保全利用地区で復元が可能などところでは、少し力を入れて管理をしていくような取組があってもよい
	病害虫(マツ枯れ)対策	<ul style="list-style-type: none"> 県では民有林が対象となるが、世界遺産の緩衝地となる森林の機能強化、具体的にはマツの植林地等の広葉樹林化等について議論している
適正な利用の推進	適正利用の推進	<ul style="list-style-type: none"> 伝統的な自然資源の利用が失われてはいけない。どのような利用があるのか調べ、それを管理計画に盛り込むべき 金作原での環境負荷が大きな問題になるのではと危惧している 利用者の数のコントロールや利用の分散化について、今後検討していく必要がある 観光客がアマミノクロウサギを見られる場所に集中することも想定される。飼育施設等を作ることを検討すべき パンフレット等で紹介されている代表的な場所に人が集中する傾向がある。先手を打って、他の地域の情報も出すべき 用がない人には道路を通れなくすること、核心地域に行くような道は管理することが重要
	ガイドによる利用	<ul style="list-style-type: none"> 広域事務組合では、エコツアーガイドの認定に取り組んでいるが、研修プログラムに、森林生態系保護地域の利用研修のようなものを盛り込めればよい 認定されたガイドしか入れない地域を作るなど、認定ガイドの優遇措置があるのが望ましい
適確な現状把握	モニタリング調査	<ul style="list-style-type: none"> 管理方針を立てるにあたり、地域ごとの希少種など動植物の生息・生育状況を科学的に明らかにし、各地域ごとの位置づけをしっかりと決める必要がある 林道の入り込み状況を示す資料が必要 地域ごとの特性を明らかにし、各々の課題と対策を検討すべき
利用者への情報の提供	普及啓発	<ul style="list-style-type: none"> 地域住民は地域に住みながら地域のことを知らないのが問題。学校でも教えているが不十分な状況 普及啓発は、説明会の開催やチラシの配布のみでは市民の意識は変わらない。住民参加型の間伐体験、イベントの仕掛け、集落の人を対象としたツアーが有効。その際、地域住民が森林管理署の人と話すことによって意識が高まるなどの副次的な効果もある 既存の普及啓発のイベントや取組も参考になるので、森林生態系の普及等に活かすべき
その他	森林生態系の連続性の確保	<ul style="list-style-type: none"> 将来的に、共用林や民有林と連携し、標高レベルで森林生態系の連続性を上げていくことも展開として出てくる 世界遺産の緩衝地となる森林の機能強化が必要 湯湾岳と神屋の連続性、八津野と低標高帯の連結の課題もある。徳之島において、北部と中央部の連携を上げること、また、中央部でも犬田布と三京あたりの連続性を上げることも重要